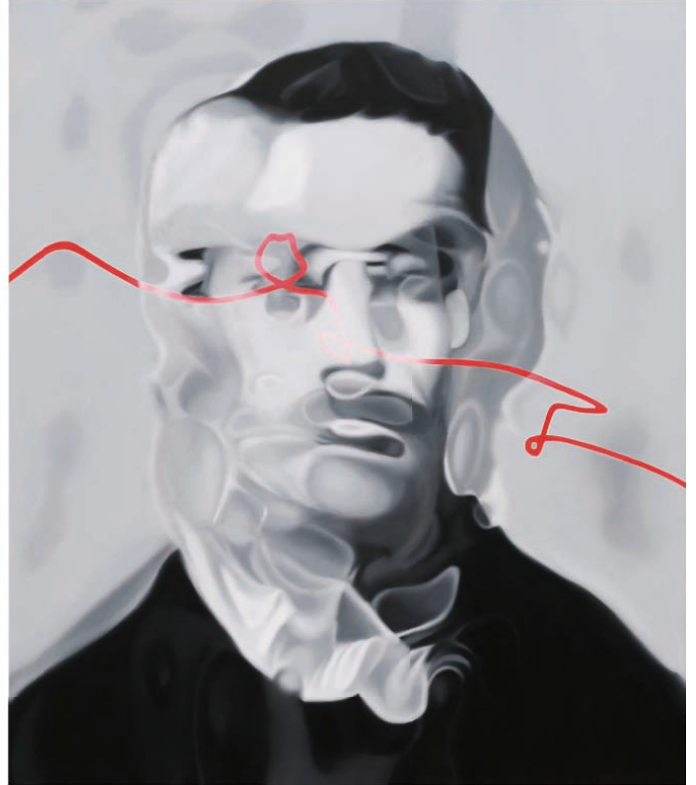


© ACG プレスリリース - CADAN有楽町にて展覧会開催のご案内 -



## Primary Surface

Genta Ishizuka 石塚源太

by ARTCOURT Gallery

Seishu Niihira

## 新平誠洙

by ARTCOURT Gallery

会場: CADAN有楽町 Gallery L

石塚源太《Untitled (Faded gold)》2025 | 金箔、漆、発泡スチロール球、2wayトリコット / 乾漆技法 | 25x19.6x18.8 cm

会場: CADAN有楽町 Gallery S

新平誠洙《Reflection #29》\*部分 2024 | 油彩、キャンバス | 162x162 cm

(撮影いづれも: 米田猛)

### 【展覧会概要】

会 期: 2025年 2月18日 [火] - 3月9日 [日]

会 場: CADAN有楽町 (東京都千代田区丸の内3-1-1 国際ビル1F)  
cadan.org/cadan-yurakucho

開場時間: 火~金 11:00-19:00 / 土日祝 11:00--17:00

定休日: 月 (但し、2月24日[月祝]は開廊、翌25日[火]は休廊)

◆オープニングレセプション: 2月18日 [火] 18:00-20:00

◎ 石塚源太、新平誠洙 関連情報

**ART FAIR TOKYO 2025**

// アートコートギャラリー ブース S011 //

**2025年3月7日[金]-3月9日[日] \*3月6日[木]は招待制**

会場: 東京国際フォーラム (ホールE / Galleries Section)

◆アートフェア期間中、両会場で石塚と新平の新作を紹介します。

© ACG プレスリリース - CADAN有楽町にて展覧会開催のご案内 -

## 石塚源太「Primary Surface」 by ARTCOURT Gallery

*Genta Ishizuka 'Primary Surface' by ARTCOURT Gallery*

漆が生み出す皮膜をテーマに、石塚源太は本能的な身体感覚を触発させる抽象造形の可能性を一貫して追求し続けています。樹液である漆に然るべき形を与え、その表面に宿るつやを漆のふるまいとして躍動させる《Taxis》シリーズで空間を構成し、生命力に溢れます。ますます魅力を高める作品展開をすべて新作で紹介し、素材特有の質感や現象といった自然の中から根源的な美を捉え、人々に新鮮な驚きをもたらす石塚ならではの造形表現との出会いをどうぞお楽しみください。

### 【作家ステートメント】

#### ‘Primary Surface’

漆が持つフェッテッシュな質感に魅了され作品を作ってきました。漆を塗ることと磨くことで重なる皮膜の質感と奥行きを曖昧さに、感情や無意識、触覚といった身体性を投影し、朦朧とした表皮を表現できるのではと思うのです。

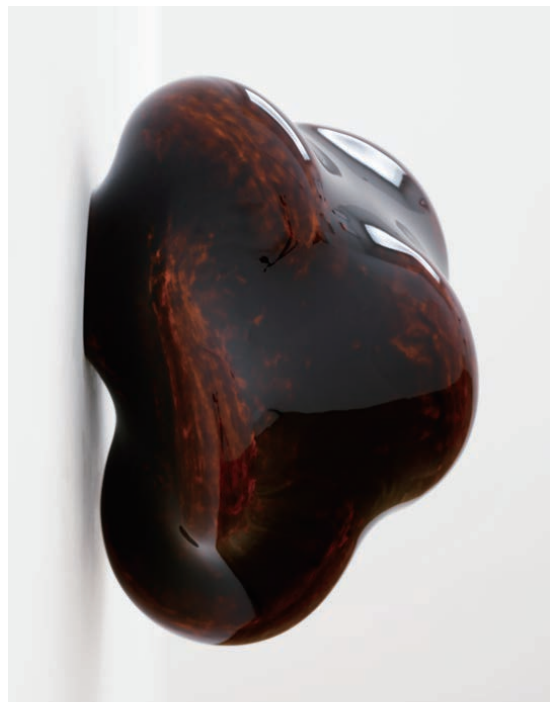
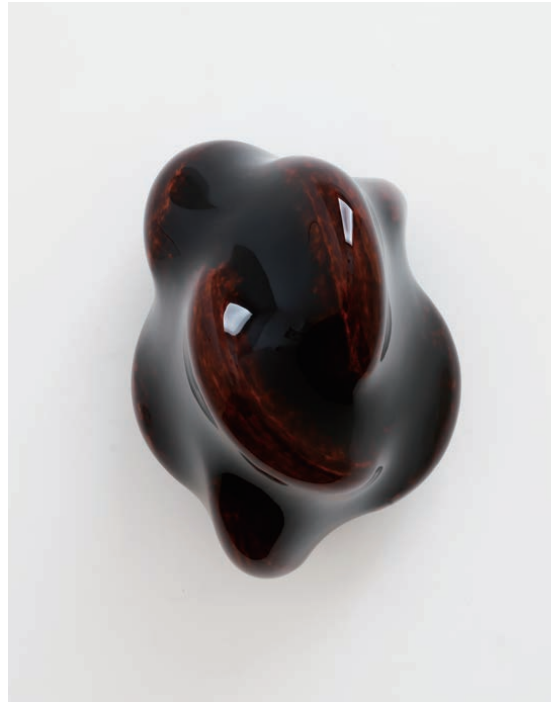
木の樹液である漆は、液体であるがゆえにそれ自体で形を留めることができません。塗る対象となる支持体があることで形が自立します。その支持体を作る過程で、漆が成るべき形、成るべき表情を探しています。漆が起こす現象、偶然性と駆け引きすることで、主体的になりすぎず、お互いの淡いなかで何かを作ろうとしているのだと思います。

数年前、初めて胃カメラの検査を受けたとき、麻酔で無抵抗になった私の身体の中に異物が侵入していく恐怖を感じました。そのとき、小学生の時に見た映画の『エイリアン』でエイリアンが登場人物のお腹を突き破って出てくるシーンが思い浮かびました。その不安と恐怖に耐えながら、内側から皮膚を押し出してくる胃カメラの動きに、自分の制作における皮膜とその構造との関係性を重ね合わせていました。

今回個展のメインの作品は空調で使われるアルミニウムのダクトホースを用いて結び目のような形を作り、そこに伸縮性の布を被せて原型を作っています。その上に麻布を貼り重ねる乾漆技法による漆の下地を施し、漆を塗っています。

作品タイトルにある「Taxis」とは、「走性」を意味し、生物が外界からの刺激に一定の方向性を持った行動をとることを言います。素材の特徴を活かしたいと思いながら制作していると、自分の意図なのか、素材からの意図なのか不明瞭になることがあります。自分が漆からの刺激によって無意識に影響を受けているようなことを作品として見せたいと思いました。漆との相互作用や走性を視覚化し、そのうねりある形状に反映させました。

皮膜は、何かを隔てる存在でありながら、その境界に両義的な意味を宿します。それは、内側と外側、触れるものと触れられるもの、表層と深層の間に存在する曖昧な領域です。内外を分けるだけでなく、揺れ動く皮膜に割り切れない何かを宿すべく制作を続けています。(石塚源太)



石塚源太《Taxis Groove (on wall) #7》2025  
漆、麻布 乾漆技法 | 70.8 x 53.3 x 48.5 cm | 撮影: 来田猛

◎石塚源太 1982年京都生まれ。ロイヤル・カレッジ・オブ・アート(ロンドン)への交換留学を経て、2008年に京都市立芸術大学大学院工芸科漆工専攻修了。  
主な展覧会: 「工芸的美しさの行方」(寺田倉庫、東京/建仁寺、京都、2024年)、「LOEWE Lamps」(Palazzo Citterio, ミラノ、2024年)、「漆風怒濤-現在を駆け抜ける髹漆表現-」(石川県輪島漆芸美術館、石川、2023年)、「跳躍するつくり手たち」(京都市京セラ美術館、京都、2023年)。

主な受賞: 京都府文化奨励賞(2024年)、ロエベファンデーションクラフトプライズ2019大賞(2019年)、京都市芸術新人賞(2019年)。

2025年の予定: 「アートフェア東京2025[アートコートギャラリーより出展]」(東京国際フォーラム、東京、3月7日~9日 \*3月6日は招待制)、個展(アートコートギャラリー、6~7月)など。

【お問い合わせ】アートコートギャラリー [担当: 大場] ※ビジュアル資料ご希望の方は、お気軽にお問合せ下さい。

〒530-0042 大阪市北区天満橋1-8-5 OAPアートコート1F TEL:06-6354-5444 FAX:06-6354-5449 E-mail:info@artcourtgallery.com www.artcourtgallery.com

© ACG プレスリリース - CADAN有楽町にて展覧会開催のご案内 -

## 新平誠洙 by ARTCOURT Gallery

Seishu Niihira by ARTCOURT Gallery

時間の経過や光学原理をテーマに、イメージや情報が氾濫する現代のリアリティを重ねた実験的なアプローチで、絵画の時間と空間表現を探求する新平誠洙の新作を紹介します。二つの異なるイメージを互いに侵食し合うノイズのように描写する《Reflection》は、新平が活動初期より制作するシリーズです。今回は、肖像画を学習したAIが生み出す新たなイメージの生成過程をモチーフに、物事が対照的な二つの側面をもつ二重性を問いかけます。

### 【作家ステートメント】

仏教用語に「二而不二(ににふに)」という言葉がある。1枚の紙に表と裏があるように、1人の人間の中に善と悪があるように、対立した要素を持ちながらも1つのものとして存在するという考えだ。また、量子力学において、あらゆるものは粒子と波の両方の性質を併せ持つらしい。物事は矛盾した二重性を抱えることができるという点に、自身の経験からもリアリティを感じ、作品制作のテーマとしてきた。

Reflectionシリーズでは、2つのイメージが窓ガラスに反射、透過してノイズな1つのイメージとして重なるように描いている。今回は、肖像画を学習させたAIによる生成画像を2枚重ねている。強烈な二項対立ではないものの、同じ参照元に対しての学習条件を変えた生成画像を使用することで「別の可能性」を対峙させている。干渉しあう確率の波にたゆたう人影。これが今の自分にとってのリアルなポートレートである。(新平誠洙)



新平誠洙《Reflection #28》《Reflection #29》2024  
油彩、キャンバス | 162x162 cm | 撮影: 来田猛

### 【個展のお知らせ】

新平誠洙「Phantom Paint」

2025年3月21日[土]～4月26日[土]

アートコートギャラリー(大阪)

11:00-19:00(土は 11:00-17:00) 日月祝休

※ 関連イベント情報や展覧会詳細は後日ウェブサイト等でお知らせいたします。

※ 新シリーズとなる《Phantom Paint》を発表する個展を3月21日より開催します。

先行して、CADAN有楽町、アートフェア東京では、《Phantom Paint》シリーズの作品も数点出展しご紹介いたします。

◎新平誠洙 1988年大阪府生まれ。2014年京都市立芸術大学大学院美術研究科絵画専攻修了。

主な展覧会: 「MEET YOUR ART FESTIVAL 2023」(寺田倉庫B&C HALL、東京、2023年)、「ACG eyes 7: RECORDS」(アートコートギャラリー、大阪、2022年)、「Kyoto Art for Tomorrow 2022 <アンスティチュ・フランセ関西賞>」(京都文化博物館、2022年)、個展「DiVISION」(アートコートギャラリー、大阪、2018年)。

2025年の予定: 「アートフェア東京2025[アートコートギャラリーより出展]」(東京国際フォーラム、東京、3月7日～9日 \*3月6日は招待制)、個展「Phantom Paint」(アートコートギャラリー、3月22日～4月26日) など。

【お問い合わせ】 アートコートギャラリー [ 担当: 大場 ] ※ビジュアル資料ご希望の方は、お気軽にお問い合わせ下さい。

〒530-0042 大阪市北区天満橋1-8-5 OAPアートコート1F TEL:06-6354-5444 FAX:06-6354-5449 E-mail:info@artcourtgallery.com www.artcourtgallery.com